

瀬戸市長根連区自治協議会（愛知県）

活動地域の紹介

瀬戸市長根連区自治協議会の会長の近藤と申します。副会長の鈴木です。よろしくお願いします。

瀬戸市長根連区自治協議会は、せともの産地として少しは名が知れていると思いますが、愛知県瀬戸市にあります。瀬戸市は名古屋市への西の玄関として発展してきました。人口は13万2,778人で、鉄道は名鉄瀬戸線、愛知環状鉄道があり、道路は名古屋瀬戸街道、国道363号線、東海環状道の赤津インターチェンジ、品野インターチェンジがあり、名古屋市や豊田市などとのアクセスがよく、瀬戸焼等の工業施設や名古屋市へのベッドタウンとしての住宅地の開発が進んでいます。



長根連区は、小学校区からなる市内20連区の中の一地区で、瀬戸市の西部にあり、今年4月現在で人口が9,177人、3,762世帯となっています。昭和44年に長根小学校が開校されたことに伴い、自治会も効範(こうはん)連区から独立しました。

長根連区の犯罪発生状況は、刑法犯は毎年少しずつではありますが減少しています。特に住宅対象侵入盗や車上ねらいなどの街頭犯罪は、いまから説明いたします防犯活動の取り組みの効果も表れてか、大幅に減少しています。自治協議会は、副会長、連区内13町内の町内会長で構成されていますが、大きな行事については連区の公民館をはじめ、スポーツ団体等の各種団体と連携をして行っております。

●長根連区の犯罪は・・・

●刑法犯認知件数

平成23年:161件(3位)市内:1,769件
平成22年:170件(3位)市内:1,789件
平成21年:152件(4位)市内:1,829件
平成20年:152件(3位)市内:1,649件
平成19年:163件(4位)市内:1,709件
平成18年:221件(2位)市内:2,001件
平成17年:228件(4位)市内:2,369件
平成16年:220件(3位)市内:2,813件

●長根連区自治協議会は・・・



会長、副会長(5名)、町内会長(13町内)で構成され、各種団体と連携し、連区の運営を行っています。

自主防犯活動の推進

現在3つの部隊で活動しています。パトロール隊設立の最初のきっかけは、2005年に瀬戸市および長久手市(当時は長久手町)にまたがって開催された「愛・地球博」、愛知万博からです。万博で多くの人をお迎えするにあたり、市の犯罪を減少させたいとの思いと、平成15年が犯罪多発のピークだったことから決断しました。いずれの部隊も、だれもが気軽に、負担がかからないように参加できることをモットーとしています。

自治会防犯パトロール隊

自治会防犯パトロール隊は夜間専門です。平成 17 年8月に結成しまして、現在 143 名。毎月1日の午後7時 30 分に、長根連区の安全安心ステーションである公民館に集合して、当日の注意事項などの説明のあと、同所に保管してあります、反射チョッキ、帽子、スーパーライト、強力ライトなど防犯グッズを着用、装備をして、連区内 13 町内、13 班に分かれて1時間程度、町内を隈無くパトロールします。その後公民館に一度帰り、パトロールの様子などの報告のあと解散します。

自治会子ども見守り隊



自治会子ども見守り隊は、平成 20 年6月に結成しまして、長根小学校の登下校時を中心に見守り活動を行います。見守りの方法は様々です。児童の通学班に付き添って学校に来る人、信号機のない交差点に立って横断指導をする人。そのほか、散歩やジョギングを児童の登下校の時間に合わせて行っていただける人もいます。自宅が通学路に面している人は、家の周りの掃き掃除や花木の水やりを児童の登下校の時間に合わせてやっています。いずれも、「おはようございます」「おかえりなさい」の挨拶運動も同時に行います。無理のない参加方法により隊員募集をすることで、現在 145 名という多くの方に活動をしていただいております。

自治会青パト隊

自治会青パト隊は、平成 20 年 11 月に結成、現在、1チーム3~4名編成で、42 チーム 145 名で活動しています。毎週火曜日から金曜日までの毎日、昼は小学校の下校時、午後2時半から午後4時半までくらいのうちの1時間程度、夜は街頭犯罪の抑止を目的に、午後7時 30 分から午後8時 30 分までの1時間、連区内を隈無くパトロールします。



その他の活動

平成 21 年に警察庁から地域安全安心ステーション事業の実施地区の指定を受けました。公民館を拠点として、パトロール隊同士が情報交換、活動の連携を図りながら、連区内の自主防犯活動を推進しています。公民館の一部を改修しまして、防犯活動支援グッズの保管場所にしています。公民館をオープンにして、だれでも気軽に立ち寄り、防犯ベスト、帽子、ライトの貸し出しをして、防犯活動がいつ

でもできるようにしています。

その他に自治会の活動が年間 70 以上あります。「楽しい防犯教室」では、防犯や交通安全などを題材にしたマジックショーなどを取り入れた防犯・交通安全教室を行います。

川の一斉清掃は年に1回、各町内の草刈り、溝掃除も年に1回行います。参加者は、毎回 250 名から 300 名で行い、終了後は大規模災害訓練の一つとして芋煮汁の炊き出し訓練も同時に行っております。環境美化と連区の住民が協力し合うことによって、犯罪の起きにくい環境づくりに努め、住みやすいまちになるように心がけております。



長根連区の課題

地域の高齢化と近所づきあいの希薄化があります。どの地区でも同じ課題を抱えていると思いますが、長根連区も若く新しい住民が増える一方で、老年人口も増加しております。また、若く新しい住民は共働き世帯が多く、近所づきあいが減っております。これらの課題を解消するために、平成 23 年9月に、愛知県警の進める絆づくりモデル事業に参加することとし、モデル地区に指定されました。モデル事業の目的である地域社会の絆づくりは、犯罪の起きにくい社会づくりを推進するために重要な取組の一つであり、この地域社会の絆を強めるための活動を通じて、防犯意識の高揚と地域の持つ自律力の強化を図るものであるとの説明を受けていますが、私どもも地域社会の絆を強化することが、地域が抱える課題を解消し、犯罪の起きにくい、住みやすい環境づくりにつながるという思いから、このモデル事業を警察や瀬戸市の方々と協働して取り組むことにしました。



絆づくりモデル事業の始まりは、平成 23 年 10 月 25 日、名古屋市内で開催されました絆づくりセミナーへの出席からでした。テーマは「脱無縁社会の地域づくり・人づくり」と題して、愛知大学地域政策学部教授の鈴木誠先生の講演を拝聴したあと、パネルディスカッション、ワークショップにも参加させていただいて、「なぜ地域の絆が必要か?」、今求められている共助の社会の実現などの話に、大変感銘を受けて帰ってきました。セミナーの参加のあと、長根連区では自治会を始め公民館長ほか、各種団

体長を中心に 22 名の住民参加を得て、本年4月までに5回のワークショップを重ねてきました。ワークショップでは地域の絆の強化のためのたくさんの意見が出されました。これからの高齢化社会に向けて、地域に必要なこと、その必要なことのうち、私たちのできることは何か、今すぐにできることは何かなどです。写真は、私たちが防犯対策としてできるようになるために、侵入盗防止の防犯フィルムを実際に張るといふ、防犯教室のときの写真です。

5回目のワークショップで、高齢者の一人住まいの方、体に障害のある方、ご夫婦であっても高齢で生活支援を必要とする方などの困りごとのお助けをしたらどうか、地域で困っている人を地域で助けようと

の聲がだんだん大きくなりました。その結果、平成 24 年4月 22 日、ワークショップに参加した自治会の役員、各種団体長、町内会長など 22 名により、「お困りごとお助け隊」が発足しました。

●絆づくりセミナー

地域社会の絆を強める活動を推進するために、絆づくりセミナーに参加。



主催者あいさつ

- 有識者講演
愛知大学教授 鈴木誠氏
「脱無縁社会の地域づくり・人づくり」
- パネルディスカッション
コーディネータ 鈴木誠氏
「なぜ地域の絆が必要か？
～今、求めたい、共助の社会～」
- ワークショップ(2地区合同)
「地域活動への広い世代の参加」
「楽しく、魅力ある地域活動の実施」

●絆づくりワークショップ



体験型防犯教室

お困りごとお助け隊の活動

支援を必要としている高齢者などに対し、居宅内の家具等の移動、買い物などのお手伝い、困りごと相談の受理、防犯対策、防災対策のお手伝い、火災用報知器の取り付けなどを中心に、地域の困りごとを把握しながら支援活動を実施していきます。

発足式の終了後、高齢者宅を訪問してお助け隊発足のチラシの配布をしながら、防犯対策のお手伝いとして、希望される方には窓の補助錠の取り付けを実施しました。このときは、地元ケーブルテレビや新聞各社が取材に来ていただいて報道をしていただきました。お助け隊活動として、5月には一人住まいの高齢者5名の方に、ご希望の品のお買い物のお手伝いをいたしました。訪問した高齢者の方からは「ありがとう」と何度も言われました。女性隊員は感激しています。

●お困りごとお助け隊発足

高齢者等支援を必要とする住民を地域で助ける仕組み作りのため、自治協議会役員及び各種団体長を中心とした住民によって、結成しました。



●お困りごとお助け隊活動

広報活動・防犯対策



窓の補助錠を取付ました。

●お困りごとお助け隊活動

報道



今後の取組ですが、活動メンバーの増強、相談窓口の設置、活動内容を増やすなどボランティア活動の充実を図り、これらの活動を通じて、自らできることは自分でし、できないことは住民同士で助け合

い、ときには警察や自治体と連携しながら、自助・共助・公助の社会を築き、長根連区が住みやすく犯罪の起きにくい環境になるようにしていきたいと思っております。

質疑応答

●質問 地域の安全安心まちづくりには、まず絆づくりからというのは、とても大事なことだと思います。例えば、お困りごとのニーズをどうやって把握しておられるのかということが1点と、いま構成メンバーが22人ということなので、どういう方たちが中心か。年齢構成や性別。それから今後、おそらく若い人を巻き込みたいという思いが当然あると思うのですが、どうやってメンバーを増やしていくか、具体的な思いをお聞かせください。

○回答 今まで連区の中には、自治会に対して、実際困っていらっしゃる方からの様々なお申し出がありました。例えば、84歳のおばあちゃんでしたが、今までベッドが2階にあって、もう2階へ上がれなくなった。是非ベッドを1階に下ろしたいというわけですね。その場合、先に1階の部屋にあるタンスを2本ばかり片付けなければならぬ。そしてベッドを下に降ろさなければいけない。「私一人ではとてもできない」という相談がありまして、これはもったもた話だなと。早速お手伝し、非常に喜ばれました。高齢者の一人暮らしでは、心配事が先に立って夜も寝られないことがときどきあるそうです。そこで自治会が受け皿となって、お困りごとを解決しなければいけないのではないかと、ずっと考えていたわけですね。高齢者の皆さんと直接接することによって、いろいろなお話をしながらお助け活動を行っていけば、一番の絆づくりになるんじゃないかということを思ったんですね。そして、お困りごとお助け隊を4月22日に発足させました。今までにやらせていただいたことは、既存の活動であるお一人住まいの方への配食サービス時にお買い物のお手伝いをさせていただきました。これも非常に好評でした。女性隊員が担当したのですが、喜んで帰ってきました。

まだ立ち上がったばかりで、これからどんどん活動を広めていきたいと思っています。連区には各種団体がありますので、折あるごとに説明して、つなぎ役になっていただいて、本当に困っている人の掘り起こしをしていきたいと思っています。

●質問 万が一ケガをした場合はどのようなことで対応するのか。教えてください。

○回答 最初は、3つの隊ですと450～500人近かったんですね。その方をいちいち保険に入れると、一人300円としても相当な金額になります。最初はそれでもやっていたんですが、これはちょっと財政が持たないということで、大変困っていました。

そんな時、瀬戸市内の各連区では、地域力向上委員会を設立して、新たな地域活動を立ち上げていました。折しも、瀬戸市内20連区で構成する瀬戸市自治連合会の中で、3つの部会があり、その一つに防犯(地域安全)交通部会があり、私が部会長をしていましたので、その部会の中でボランティア保険の新設を議題にあげて議論し、3年近くかけて、保険会社数社と折衝を重ねた結果を市長さんに提案し、要望しましたところ、平成23年4月1日に「市民活動災害補償制度」を新設していただきました。このことにより、市内20連区の事業活動及び20連区内の各町内の事業活動もカバーできることになりました。さらに瀬戸市に登録されている180団体余りの市民団体のボランティア活動内容も補償されることになりました。

おかげで、長根連区も町内活動、連区活動において、瀬戸市市民活動災害補償制度に登録してい

まずのご案内出来るようになり、ボランティア活動にも一層「力」が入るようになりました。

あと、青バトの場合ですと、それにプラス自動車保険が加わりますので、入れるだけ入っています。皆さんに安心して参加していただいている現状です。